2019 年 9 月 10 日

ニュースリリース

ジェットスター・ジャパン株式会社

ジェットスター・ジャパン、4 期連続の黒字決算

- 営業収入は 2019 年 6 月期も増収を維持
- 当期純利益は対前年比 4.1%減の 9 億 1,400 万円で 4 期連続の黒字決算
- 年間利用者数は 552 万人で前年同期比 3.0%増
- 2023 年度までに 35 機体制へ

ジェットスター・ジャパン株式会社（本社：千葉県成田市、代表取締役社長：片岡優）は本日、2019 年 6 月期決算（2018 年 7 月 1 日～2019 年 6 月 30 日）を取りまとめました。営業収入は過去最高の 605 億円（前年同期比 6.2%増）、営業利益は 10 億 6400 万円（前年同期比 6.2%減）、当期純利益は 9 億 1400 万円（前年同期比 4.1%減）となりました。燃料費の上昇や自然災害などの影響を受けながらも増収、および 4 期連続で黒字を達成しました。

ジェットスター・ジャパンは昨年度、いずれも単独路線となる成田＝長崎、関西＝熊本、成田・関西＝高知、成田＝下地島路線の国内 5 路線を新たに開設しました。総搭乗者数（有償ベース）は昨年度から 16 万人増え、当社過去最高の 552 万人（前年同期比 3.0%増）となりました。

ジェットスター・ジャパン株式会社の代表取締役社長 片岡優は次のように述べています。
「過去最高の営業収入、および 4 期連続で黒字決算を達成することができましたのも、ご利用いただきましたお客様に加え、関係各所皆様のご支援の賜物と感謝申し上げます。昨年度、就航からの累積搭乗者数は 3,000 万人を突破し国内 LCC として最速で達成することができました。機材導入および路線網の拡充も順調に進み、現在 1 日最大 132 便運航しており、国内線においては LCC として引き続き最多の路線・便数で運航します。また、今秋より国内 LCC として初めて自動手荷物預け機を導入するほか、自社のウェブ・モバイルサイトの機能強化を図り、お客様の利便性をさらに向上してまいります」

ジェットスター・ジャパンは昨年度、3 機のエアバス A320 型機を導入し、現在 25 機体制で国内 16 都市 24 路線・国際 4 都市 7 路線を運航しています。また、来年半ば以降にエアバス A321LR 型機を 3 機導入する予定で、今後の市場環境や運航リソースの状況を見極めながら 2023 年度までに 35 機体制にする計画です。

LCC として国内線最大シェア（注 1）を擁するジェットスター・ジャパンは、『日本の空、世界の空を、もっと身近に。』というビジョンの下、今後も安全運航を第一として低運賃で楽しい空の旅を提供できるよう努力してまいります。

（注 1）国土交通省「航空輸送サービスに係る情報公開（平成 30 年度第 4 回）（2019 年 7 月発表）を基にジェットスター・ジャパンが算出。本邦 LCC における国内線マーケットシェア：47%（RPK ベース：平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

■2019 年 6 月期　決算概要　　（百万円）

	2018 年 6 月期	2019 年 6 月期	増減	前年同期比
営業収入	57,014	60,523	+3,509	+6.2%
営業利益	1,134	1,064	▲70	▲6.2%
経常利益	1,091	945	▲146	▲13.4%
当期純利益	953	914	▲39	▲4.1%

【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012 年 7 月より日本国内線、2015 年 2 月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内 16 都市・24 路線、国際 4 都市・7 路線を 25 機のエアバス A320 型機（180 席）で 1 日最大 130 便を運航しており、就航から 3,000 万人以上のお客様にご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。https://www.jetstar.com/jp/ja/home